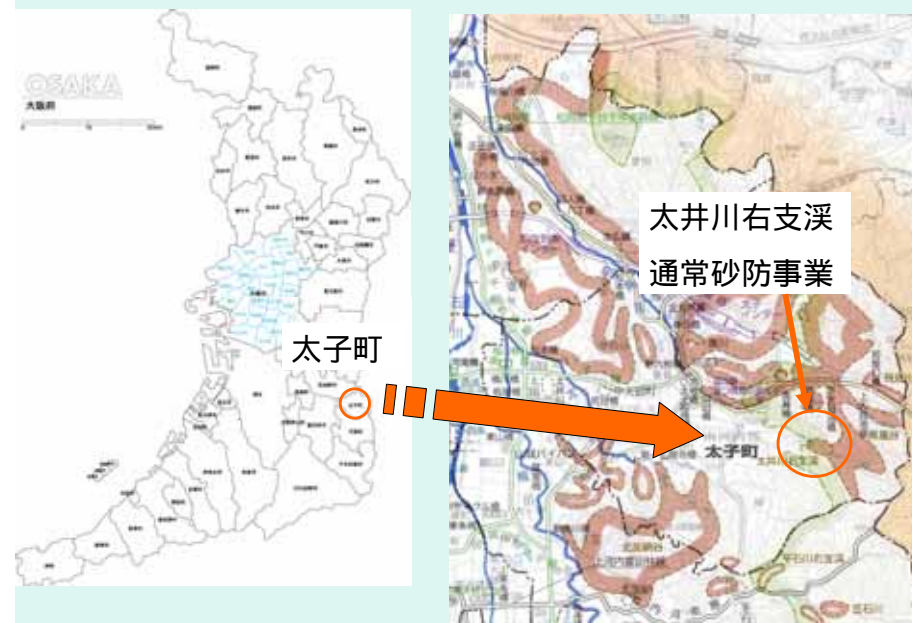


一級河川大和川水系 太井川右支溪 通常砂防事業

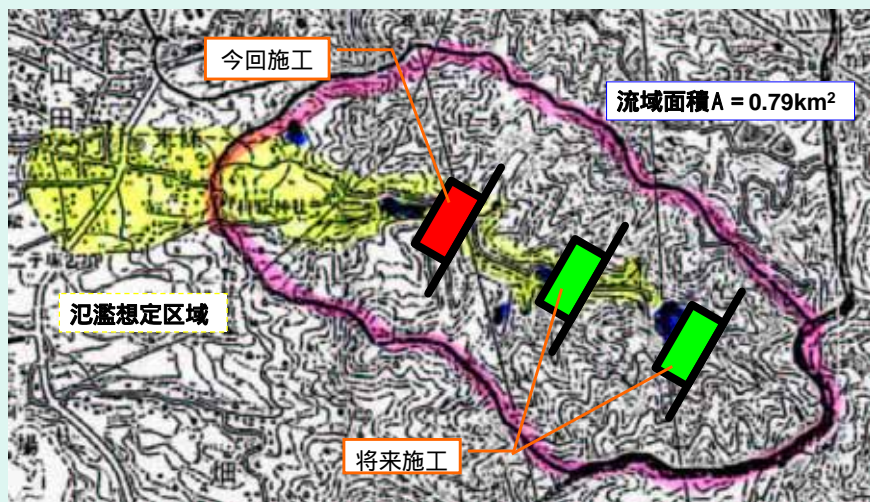
平成18年12月19日

大阪府都市整備部河川室ダム砂防課

位置図



流域図



保全対象



太井川右支溪通常砂防事業の概要

1 事業の目的

人家に直接、土砂災害の被害を及ぼす恐れのある溪流について、砂防施設を整備し、土砂災害の防止を図る。

2 事業概要

砂防えん堤工 1基 (堤高H = 9.0m、堤長W = 42.6m)

事業期間【計画時】 H6 ~ H8 (事業採択H5)

【再評価時】 H10 ~ H15 (＃)

【再々評価時】 H10 ~ H16 (＃)

【実績】 再々評価時と同じ

事業費【計画時】 1.5億円(用地0.15億円 工事1.35億円)

【再評価時】 1.5億円(用地0.15億円 工事1.35億円)

【再々評価時】 1.9億円(用地0.2億円 工事費1.7億円)

【実績】 再々評価時と同じ

5

完成写真(H16年度竣工)

- 砂防えん堤工 1基 (堤高H = 9.0、堤長W = 42.6m)
- 流域面積A = 0.79km²
- 流出土砂量V = 26,379m³

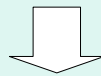


事業効果の定量分析

- 費用対効果(便益マニュアルの改訂に伴う変更)
 - (再評価時) $B / C = 10,994 \text{百万円} / 450 \text{百万円} = 24.43$
 - (再々評価時) $B / C = 2,551 \text{百万円} / 191 \text{百万円} = 13.36$

便益内容: 百年に一度の大雨に対する、

- ・ 人命保全効果
- ・ 資産被害抑制効果
- ・ 農作物被害低減効果
- ・ 道路被害低減効果



費用対効果(実績)

計画時に想定した降雨による災害が発生しておらず、実績としての費用対効果は算定が困難。

7

事業効果の定性分析

- 砂防えん堤の完成で土石流災害を未然に防止し、下流の家屋等の安全が確保された。



太井川右支溪 砂防えん堤

参考



土石流

被災箇所



被害なし



砂防えん堤が土砂を捕捉

砂防えん堤の効果(H16台風23号 土石流災害【京都府宮津市】 国土交通省提供)

自然環境への対応

最小限の森林伐採



森林伐採を
最小限に留
めた



えん堤完成後の環境への効果

土砂がたまり、山腹が崩壊しにくくなるため、
倒木の発生が抑制され良好な緑地が形成さ
れる



上下流の連続性



スリット型えん堤を採用し、上下流の連続性を確保。

えん堤の中心に切り込みがあり、平時は土砂を流し、洪水時は礫で目詰まりさせ、土砂を溜めるタイプのえん堤。大阪府では事故防止のため人家直上流での採用はしない。

今後の方針

- スリット型えん堤は、上下流の連続性を確保出来る工法であり、今後とも設置可能な箇所には積極的に採用していく。
- 用地買収から工事を通して、計画時から適切な工期設定を行っていく。